

科目名	論理国語	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	実社会に必要な国語の知識を身に付け、論理的・創造的に思考する力を養い、適切かつ効果的に表現し伝え合う力を高めるとともに、言語感覚を磨き、進んで表現する姿勢や、読書に親しみ自己の向上、社会生活の充実を図る態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に、創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
	A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。
	B できる	実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことが出来ている。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。
	C する	実社会に必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法		定期考査・小テスト・課題・レポート・授業時の観察	定期考査・小テスト・課題・レポートや小論文・授業時の観察	課題の提出状況・授業への取り組み姿勢・レポートや小論文作成時の取り組み姿勢

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 論理と出会う 2 具体と抽象 3 対比をとらえる
2 学期	4 主張をつかむ 5 論理的に書く―小論文① 6 統計資料を活用する
3 学期	7 比べて読む 8 レポートを書く

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編 論理国語』 副教材（教科書準拠ノート等） 教科担任作成資料 桐原書店『常用漢字ワイドアルファ』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習・ペア学習 個別の調べ学習

科目名	論理国語	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学	コース 理系
目標	実社会に必要な国語の知識を身に付け、論理的・創造的に思考する力を養い、適切かつ効果的に表現し伝え合う力を高めるとともに、言語感覚を磨き、進んで表現する姿勢や、読書に親しみ自己の向上、社会生活の充実を図る態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に、創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
	A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。
	B できる	実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことが出来ている。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。
	C する	実社会に必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法		定期考査・小テスト・課題・レポート・授業時の観察	定期考査・小テスト・課題・レポートや小論文・授業時の観察	課題の提出状況・授業への取り組み姿勢・レポートや小論文作成時の取り組み姿勢

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 論理と出会う 2 具体と抽象 3 対比をとらえる
2 学期	4 主張をつかむ 5 論理的に書く―小論文① 6 統計資料を活用する
3 学期	7 比べて読む 8 レポートを書く

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編 論理国語』 副教材（教科書準拠ノート等） 教科担任作成資料 桐原書店『常用漢字ワイドアルファ』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習・ペア学習 個別の調べ学習

科目名	古典探究	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通した先人のものの見方や感じ方、考え方とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	古典を通して，先人のものの見方や感じ方，考え方を理解することができる。	古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
	A わかる	古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	古典作品を，自らの考え方や生活に結び付けながら読もうとすることができる。
	B できる	必要に応じて書き手の考えや目的，意図をとらえて内容を解釈することができる。	古典作品を読むためのきまりや語彙を身に付けようすることができる。
	C する	文章の種類を踏まえて，古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	古典作品に進んで慣れ親しもうとする姿勢をもつことができる。
評価方法	授業・定期考査	構成や展開などを的確に捉え，文章の種類を理解することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・ 古文 随筆(枕草子)，物語(源氏物語・大鏡)，日記(蜻蛉日記・和泉式部日記・紫式部日記) ・ 漢文 史伝(三国志・史記)，小説(人面桃花・杜子春伝)，漢詩
2 学期	・ 古文 評論(古今和歌集仮名序・無明草子・風姿花伝・去来集) ・ 漢文 思想と寓話(荀子・孟子・孟子・老子・韓非子) ・ 私大試験対策
3 学期	・ 共通テスト対策

何で学ぶか(教材)

- 教科書 第一学習社『精選 古典探究』 - 副教材 『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法準拠ノート』(数研出版) 『新明説漢文』(尚文出版) 『重要古文単語315』(桐原書店)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

- 講義 - ペア学習 - グループ学習 - 問題演習
--

科目名	古典探究	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通した先人のものの見方や感じ方、考え方とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	古典を通して、先人のものの見方や感じ方、考え方を理解することができる。	古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	古典作品を、自らの考え方や生活に結び付けながら読もうとすることができる。
	A わかる	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解できる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈することができる。	古典作品を読むためのきまりや語彙を身に付けようすることができる。
	B できる	古典の作品に表れている言葉の響きやリズム、表現の特色などを理解することができる。	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	古典作品に進んで慣れ親しもうとする姿勢をもつことができる。
	C する	古典の作品や文章の種類とその特徴を理解することができる。	構成や展開などを的確に捉え、文章の種類を理解することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・ 古文 随筆(枕草子)，物語(源氏物語・大鏡)，日記(蜻蛉日記・和泉式部日記・紫式部日記) ・ 漢文 史伝(三国志・史記)，小説(人面桃花・杜子春伝)，漢詩
2 学期	・ 古文 評論(古今和歌集仮名序・無明草子・風姿花伝・去来集) ・ 漢文 思想と寓話(荀子・孟子・孟子・老子・韓非子) ・ 私大試験対策
3 学期	・ 共通テスト対策

何で学ぶか(教材)

- 教科書 第一学習社『精選 古典探究』 - 副教材 『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法準拠ノート』(数研出版) 『新明説漢文』(尚文出版) 『重要古文単語315』(桐原書店)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

- 講義 - ペア学習 - グループ学習 - 問題演習
--

科目名	文学国語	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯に渡って読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
	A わかる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を理解するとともに、我が国の言語文化に対する理解する。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力をつけ、他者との関わりの中で伝え合う力をつけ、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとする。	言葉が持つ価値への認識を理解するとともに、生涯に渡って読書に親しみ、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
	B できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けようとするとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力をつけようとし、他者との関わりの中で伝え合う力をつけようとし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとする。	言葉が持つ価値への認識を理解しようとするとともに、生涯に渡って読書に親しみ、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
	C する	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けようとするとともに、我が国の言語文化に対する理解しようとする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力をつけようとし、他者との関わりの中で伝え合う力をつけようとする。	生涯に渡って読書に親しみ、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
評価方法		考查，小テスト	考查，小テスト	授業内

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	愛のサーカス 少年という名前のメカ 詩人のふるさと 檸檬・バックストローク
2 学期	客ざらい 畜犬談・変身 短歌・俳句 氷男・舞姫
3 学期	

何で学ぶか(教材)

桐原書店『探求 文学国語』 副教材 教科担任作成資料

どのように学ぶか(授業方法など)

講義式授業 アクティブラーニング オンライン授業

科目名	数学Ⅲ	授業時数	週 5 単位	3 学年
		コース	志学	コース 理
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，数学のよさを味わうことができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的，統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋を，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 簡単な計算ができ，目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	- 授業 - 定期考査 - クリアテスト	- 授業 - 定期考査 - 提出物	- 授業 - 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 関数 第2章 極限 第3章 微分法
2 学期	第4章 微分法の応用 第5章 積分法とその応用
3 学期	

何で学ぶか(教材)

・NEXT 数学Ⅲ （数研出版） ・改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅲ ・CONNECT数学Ⅲ(数研出版) ・プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 問題解決的な手法を導入し，概念を創り出す場面を経験させたい。
--

科目名		数学C	授業時数	週 1 単位	3 学年
			コース	志学 コース	
目標	新しい数学的な表現方法を学び，数学を活用して考えたり，数学的な考え方に基づいて物事を判断したりできるようにする。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，数学のよさを味わうことができる。
	A わかる	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的，統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋を，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
	B できる	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	簡単な計算ができ，目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 3 章 複素数平面 第 4 章 式と曲線
2 学期	第 5 章 数学的な表現の工夫
3 学期	

何で学ぶか(教材)

・ NEXT数学C(数研出版) ・ CONNECT数学C(数研出版) ・ プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	実践数学ⅠA	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	志学	コース
目標	基礎から実践的な問題を解くことを通して数学における基本的な知識や技能の習得を図り、事象を数学的に捉えて処理する能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生活から課題を発見し、事象を数学化することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	複合問題の構成を的確に捉え、適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な公式を選択し、解くことができる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な式を計算したり、公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業 定期考査	授業 定期考査 提出物	授業 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析
2 学期	場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 ⅠA総合問題
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版 『ニューステージ数学演習ⅠA＋ⅡBC』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	実践数学ⅡB	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース	
目 標	基礎から実践的な問題を解くことを通して数学における基本的な知識や技能の習得を図り、事象を数学的に捉えて処理する能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	複合問題の構成を的確に捉え、適切な公式を用いて解くことができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な公式を選択し、解くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な式を計算したり、公式に代入して計算したりすることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 定期考査	授業 定期考査 提出物	授業 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	式と証明・複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数
2 学期	微分法と積分法 ベクトル 数列
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版
『ニューステージ数学演習ⅠA＋ⅡBC』
補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習

タブレット教材

科目名	実践数学	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学	コース 理
目標	基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理をする能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生活から課題を発見し，事象を数学化することができる。	事象を論理的，かつ統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し，問題解決の過程を振り返り考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	複合問題の構成を的確に捉え，適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な公式を選択し，解くことができる。	適切な用語・記号を使い，人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な式を計算したり，公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 I A総合問題
2 学期	式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数・対数関数 微分法・積分法 ベクトル 数列 統計的な推測 II BC総合問題
3 学期	

何で学ぶか(教材)

ニューステージ数学演習 I A＋II BC (数研出版) 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	日本史探究	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	志学	コース 文
目標	歴史的思考力を培うなかで基礎歴史事項の確認とともに、多様化する現代社会の中での課題を考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	政治，経済，社会，文化，国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し，歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
	A わかる 日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
	B できる 日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて，現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア
2 学期	占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本
3 学期	大学入試問題演習

何で学ぶか(教材)

詳説日本史B（山川出版） 日本史のライブラリー（とうほう）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	日本史探究	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学	コース 理
目標	歴史的思考力を培うなかで基礎歴史事項の確認とともに、多様化する現代社会の中での課題を考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。
	A わかる	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
	B できる	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
	C する	平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア
2 学期	占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本
3 学期	大学入試問題演習

何で学ぶか(教材)

詳説日本史B（山川出版） 日本史のライブラリー（とうほう）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	世界史探究	授業時数	週	4 単位
		コース・学年	志学コース（文系）	3 学年
目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	世界史Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	諸問題（政治・外交・経済等）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 第12章 産業革命と環大西洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺
2 学期	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序 第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界 問題演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

山川出版社『詳説世界史』 啓隆社『新世界史要点ノート（応用編）』 啓隆社『世界史重要語句Check List』 浜島書店『詳説世界史図説』
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 課題 討議

科目名	世界史探究	授業時数	週	3 単位
		コース・学年	志学コース（理系）	3 学年
目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	世界史Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	諸問題（政治・外交・経済等）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 第12章 産業革命と環大西洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺
2 学期	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序 第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界 問題演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

山川出版社『詳説世界史』 啓隆社『新世界史要点ノート（応用編）』 啓隆社『世界史重要語句Check List』 浜島書店『詳説世界史図説』
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 課題 討議

科目名	地理探究	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	志学 コース (文系)	
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	地理Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	諸問題（民族・領土問題、国際関係など）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察 第1章 地域区分 第2章 現代世界の諸地域（演習含む） （中国、朝鮮半島、東南アジア、南アジア）
2 学期	第2章 現代世界の諸地域（演習含む） （西アジア、中央アジア、アフリカ） （ヨーロッパ、ロシア、アングロアメリカ） （ラテンアメリカ、オセアニア） 共通テスト演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

地理探究（二宮書店） 新詳高等地図（帝国書院）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 作業（白地図を利用した作業など） 討議

科目名	地理探究	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース (理系)	
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	地理Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	諸問題（民族・領土問題、国際関係など）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察 第1章 地域区分 第2章 現代世界の諸地域 (中国、朝鮮半島、東南アジア、南アジア)
2 学期	第2章 現代世界の諸地域 (西アジア、中央アジア、アフリカ) (ヨーロッパ、ロシア、アングロアメリカ) (ラテンアメリカ、オセアニア) 共通テスト演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

地理探究（二宮書店） 新詳高等地図（帝国書院）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 作業（白地図を利用した作業など） 討議

科目名		英語コミュニケーションⅢ	授業時数	週 5 単位	3 学年
			コース	志学 コース	
目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i>	使える	身近な話題に関する記事，レポート，資料の概要や要点を理解し，必要な情報を読み取り，要点を理解することができる。	関心のある分野の話題について，英語を用いて具体的に説明したり，意見を述べることができる。	英語を活用し，自ら様々なことを表現しようにすることができる。
	<i>A</i>	わかる	身近な話題に関する短めな記事，レポート，資料の概要を理解することができる。	身近な話題や関心のある話題について簡単な語句や文を用いて，自分の意見やその理由を短く述べることができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	<i>B</i>	できる	平易な英語で書かれたごく短い英文を読み，イラストや写真も参考にしながら概要を理解できる。	身近な話題などについて基本的な表現を用いて簡単な質疑応答ができる。	分からないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	<i>C</i>	する	短い簡単な会話や説明文の意味を理解することができる。	身近で具体的な事物を表す単語の意味を理解し，発音できるようにする。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法			授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson 1 A Chance for Everyone to Shine Lesson2 Protecting Our Brains from Smartphones Lesson3 Wrapping: Reinventing a Cultural Tradition Lesson4 Paving the Way to a More Inclusive Society
2 学期	Lesson5 Discovering Your Answers Through Art Thinking Lesson6 Super Sniffers Saving the World Lesson7 Perceptions of Time in Different Cultures Lesson8 The Thawing Permafrost: Earth’s Warning Call
3 学期	

何で学ぶか(教材)

BLUE MARBLE English Communication III
必携英単語LEAP

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材

科目名	実践英語	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学	コース 文
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して、場面・目的・状況に応じた話題について、的確で適切な表現をすることができる。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用し、情報や考えを話したり、書いたりして表現することができる。
	<i>A</i> わかる 言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており、聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して、言語の持つ役割や文化的背景を理解し、相手意識を持ってコミュニケーションを図ることができる。
	<i>B</i> できる 英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて、その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会と関わり、またコミュニケーションを持つことができる。
	<i>C</i> する 英語を用いたコミュニケーション活動において簡単な語句や表現などの英語を使ったり、聞いたりしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが、自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや、文化的背景に気づき、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	小テスト・クリアテスト・定期考査など	定期考査・パフォーマンステストなど	授業中の取り組み・課題提出など

いつ、何を学ぶか(学習内容)

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	PART 2 文章を組み立てる Lesson 1 文と文をつなぐ Lesson 2 パラグラフ①構成/列挙・順序 Lesson 3 パラグラフ②例示・追加
2 学期	Lesson 4 パラグラフ③比較・対照 Lesson 5 パラグラフ④原因・理由・結果 Lesson 6 要点・要約①リーディングの要約 Lesson 7 要点・要約②リスニングの要約
3 学期	

何で学ぶか(教材)

何で学ぶか(教材)

•Vision Quest English Expression II Ace（啓林館） • Write to the Point（数研出版）
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習 グループ学習，ペア学習 ICTを活用した個別学習

科目名	物理	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	志学	コース 理
目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	物理学の基本的な概念や原理・法則を深く理解し，応用的な問題において式を立て，解を導くことができる。	図表やグラフ，解の意味を読み取って深く考察することができるとともに，グラフ等を用いて適切に表現できる。	グループワークや実験等において深く探究しようとする姿勢を持ち，調べたり考察したりできる。
	A わかる	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し，基本的な問題において式を立て，解を導くことができる。	図表やグラフを正確に読み取って考察することができるとともに，グラフ等を用いて適切に表現できる。	グループワークや実験等において自らの役割を見出し主体的に活動できる。
	B できる	物理学の基本的な概念や原理・法則がある程度理解でき，公式を扱うことができる。	図表やグラフを正確に読み取り，考察することができる。	グループワークや実験等において，分からないことを積極的に質問したり，教え合ったりできる。
	C する	物理学の基本的な概念や原理・法則がある程度わかる。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	グループワークや実験等において，積極的に発言するとともに課題レポートに取り組むことができる。
評価方法		定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第4編 電気と磁気 第2章 電流 第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波
2 学期	第5編 原子 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核 共通テスト対策演習・2次対策演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

教科書（『物理』数研出版） 問題集（『リードα物理基礎・物理』 Google Classroom Jam board

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 グループワーク 実験や探究活動

科目名	生物	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	志学	コース 理
目標	生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生物の基本的な概念・原理・法則を十分に理解し，数値の取り扱いも確実にできる。 実験，実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ，実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち，調べたり考察したりする。
	A わかる	生物の基本的な概念・原理・法則を概ね理解し，数値の取り扱いもできる。 実験，実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることとともに，考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	生物の基本的な概念・知識が概ね身についている。 実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり，教え合ったりできる。
	C する	生物の基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し，積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第4編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動
2 学期	第4編 生物の環境応答 第6章 植物の環境応答 第5編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系
3 学期	問題演習

何で学ぶか(教材)

教科書（数研 生物（704）） ワーク（数研 リードα生物+生物基礎） 資料（数研 フォトサイエンス生物図録）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習 実験，実習 グループ活動

科目名	実践化学基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	化学基礎で修得した内容を踏まえ、物質やその変化について科学的に判断し、考察をおこなうことができることを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、難易度の高い演習問題に対して答えを導き出すことができる。	図表やグラフ，実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。	より深く探究する姿勢を持ち，主体的に調べたり考察したりする。
	A わかる	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、標準的な演習問題に対して答えを導き出すことができる。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることともに，考察することができる。	グループ活動等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、基礎的な演習問題に対して答えを導き出すことができる。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり，教え合ったりできる。
	C する	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解しようとし、演習問題に対して答えを導き出そうとする。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し，積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法		定期考査 確認テスト 等	定期考査 確認テスト 等	授業態度 グループ活動 リフレクションシート 等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 編 物質の構成と化学結合 第 2 編 物質の変化 付録 日常生活に関連した化学
2 学期	付録 化学実験の基礎 実践演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学基礎』
授業プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習，実験 ペアワーク・グループワーク

科目名	実践地学基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学	コース 文
目標	地学基礎で修得した内容を踏まえ、地球や地球を取り巻く環境に関する事象について科学的に判断し、考察することができることを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。	図表やグラフ，実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。	より深く探究する姿勢を持ち，主体的に調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることともに，考察することができる。	グループ活動等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり，教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し，積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法		定期考査 確認テスト 等	定期考査 確認テスト 等	授業態度 グループ活動 リフレクションシート 等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	分野別問題演習
2 学期	総合問題演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

共通テスト問題集 授業プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習 ペアワーク・グループワーク

科目名	化学	授業時数	1 週	5 単位
		コース・学年	志学 コース	3 学年
目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、応用問題に対して答えを導き出すことができる。実験・実習の操作が確実にできる。	化学的な事物・現象に問題を見出し、科学的な考察をもとに導き出した考えを的確に表現している。実験・実習のレポート作製ができる。	課題・ノート・ワークを期限を守って確実に提出する。授業においても、積極的な授業参加がみられ、主体的に活動している。
	A わかる	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、それを用いて答えを導き出すことができる。実験・実習の操作をおおむね身につけている。	化学的な事象や法則について科学的に考察し、論理的に説明することができる。	課題・ノート・ワークの提出期限を守り、授業においても、発言・質問をするなど、積極的な授業参加がみられる。
	B できる	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、知識をほぼ身につけている。実験・実習に取り組むことができる。	適切な用語・化学式を使い、事象や法則を説明することができる。	課題・ノート・ワークの提出ができ、授業に参加しようとする態度がみられる。
	C する	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、知識をある程度身につけている。	教科書・問題等の意味を理解し、用語や化学式を適切に用いることができる。	授業を受ける準備ができており、参加しようとする態度がみられる。
評価方法		授業・定期考査・小テスト・実験レポート	授業・定期考査・小テスト・提出物・実験レポート	授業・定期考査・小テスト・提出物・実験レポート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	無機物質 有機化合物
2 学期	高分子化合物 共通テスト対策演習
3 学期	共通テスト対策演習 国公立2次・私大対策演習

何で学ぶか(教材)

実教出版『化学 academia』 実教出版『サイエンスビュー新化学資料』 数研出版『新課程 リードα化学基礎+化学』 演習プリント 共通テスト対策問題集

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 実験・観察

科目名	体育	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子をを整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準 S A B C 使える わかる できる する	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	基礎練習を正しくおこな い，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

教科名	数学Ⅰ	授業時数	週	3 単位
		コース・学年	研志 コース	1 学年
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 生活から課題を発見し、事象を数学化することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	A 分かる 複合問題の構成を的確に捉え、適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 課題に対して適切な公式を選択し、解くことができる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本的な式を計算したり、公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 1次不等式 集合と命題 2次関数のグラフ
2 学期	2次方程式と2次不等式 三角比 正弦定理 余弦定理
3 学期	データの分析

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学Ⅰ』
数研出版『改訂版 3ROUND数学Ⅰ +A』
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材

科目名	体育	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 理系	
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる 基礎練習を正しくおこな い，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

教科名	数学Ⅰ	授業時数	週	3 単位
		コース・学年	研志 コース	1 学年
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 生活から課題を発見し、事象を数学化することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	A 分かる 複合問題の構成を的確に捉え、適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 課題に対して適切な公式を選択し、解くことができる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本的な式を計算したり、公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 1次不等式 集合と命題 2次関数のグラフ
2 学期	2次方程式と2次不等式 三角比 正弦定理 余弦定理
3 学期	データの分析

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学Ⅰ』
数研出版『改訂版 3ROUND数学Ⅰ +A』
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材

科目名	倫理	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学	コース 文
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	<i>S</i> 使える 基本的な概念や理論及び倫理的諸課題を十分に理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	倫理的諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断することができ、自らの意見をまとめることができる。	よりよい社会の実現を視野に、倫理的諸課題を主体的に解決するための討議・調査等を行うことができる。
評価	<i>A</i> わかる 基本的な概念や理論及び倫理的諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	倫理的諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し、自らの意見をまとめることができる。	倫理的諸課題について、その問題点や克服のための課題等に気づくことができる。
基	<i>B</i> できる 基本的な概念や理論及び倫理的諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	倫理的諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察することができる。	倫理的諸課題について、教員に対して、またはグループ内で質問することができる。
準	<i>C</i> する 基本的な概念や理論及び倫理的諸課題をある程度理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	倫理的諸課題の解決に向けて、考察することができる。	授業に意欲的に参加し、グループ内等で発言することができる。
評価方法	定期考査 提出物 等	定期考査 提出物 等	授業態度 提出物 グループ討議 等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	青年期の課題と自己形成 ー 青年期の課題 人間としての自覚 ー ギリシャ思想，宗教思想，中国思想 国際社会に生きる日本人としての自覚 ー 日本思想
2 学期	国際社会に生きる日本人としての自覚 ー 日本思想（続き） 現代に生きる人間の倫理 ー 西洋思想，現代思想 現代の諸課題と倫理 ー 生命倫理，環境倫理，情報倫理

何で学ぶか(教材)

「倫理」 第一学習社 「新倫理ノート」 啓隆社 「倫理用語集」 山川出版社
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習，グループ討議

科目名	政治・経済	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース	文系
目 標	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の政治・経済的課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現代の政治・経済的課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の政治・経済的課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとすることができる
	A わかる	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに。様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現代の政治・経済的課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の政治・経済的課題について、考察し、主体的に解決しようとすることができる
	B できる	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の政治・経済的課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとするすることができる。
	C する	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	日常に関する政治・経済的課題に対して、主体的に理解しようとするすることができる。
評価方法		・授業 ・定期テスト	・授業 ・定期テスト ・提出物	・授業 ・提出物 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・ 第1編第1章 現代日本の政治 ・ 第1編第2章 現代日本の経済 ・ 第1編第3章 現代日本の諸課題
2 学期	・ 第2編第1章 現代の国際政治 ・ 第2編第2章 現代の国際経済 ・ 第2編第3章 国際社会の諸課題
3 学期	

何で学ぶか(教材)

準拠ワーク プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループワーク ディスカッション
